

住宅情報配線システムの現状と将来の展望

4 C - 4

徳田 潤

松下電工株式会社 技術企画室

E-mail : jtokuda@rda.mew.co.jp

1. はじめに

インターネットの爆発的な発展にともなう ISDN の急速な普及を筆頭に、デジタル CS サービス、双方向サービスを含む CATV、携帯電話等の普及など、住宅をとりまく情報環境は目まぐるしい変化にさらされている。しかし、住宅における情報インフラとしては現状では電気配線と同様、新築時に一度設置した設備は変更することなく使われるため、インフラとして定着したものだけを先行的に壁の中に配線しておくことが望ましい。

2. 現状の住宅情報配線システム

映像系の入力としてデジタル CS, BS, UHF, VHF を、通信系の入力としては ISDN を想定し、それらの入力を Fig.1 の「マルチメディアポート」に集め、各部屋では Fig.2 の「マルチメディアコンセント」から取り出せるようにした情報配線システムがある。これによりデジタル CS は 4 カ所、BS・U/V は 4 カ所で視聴が可能になる。また、各部屋で従来の電話や FAX が使え、TA を接続し ISDN 利用が可能となる。現状のデジタル CS チューナはペイ・パー・ビュー等のデータを電話回線を使って送っているため、それぞれの部屋で電話回線が使えることも重要なポイントである。

3. 住宅情報配線の将来展望

今後 10 年間で、地上波放送を含めたデジタル化、CATV の一層の普及、FTTH による高速通信網の発展、無線通信の一層の普及が確実である。また IEEE1394 が最有力候補である AV 機器のデジタルインターフェスの普及により AV 機器の接続形態までもが変わってしまう可能性を秘めている。

接続工事の容易さから、住宅内に敷設する高速伝送にはプラスチック光ファイバ(POF)が有望である。POF を用いて 10Gbps, 100m の伝送例も報告されており[1]早期の実用化が期待される。

[1] Inter Opt'99 POF コンソーシアムの展示

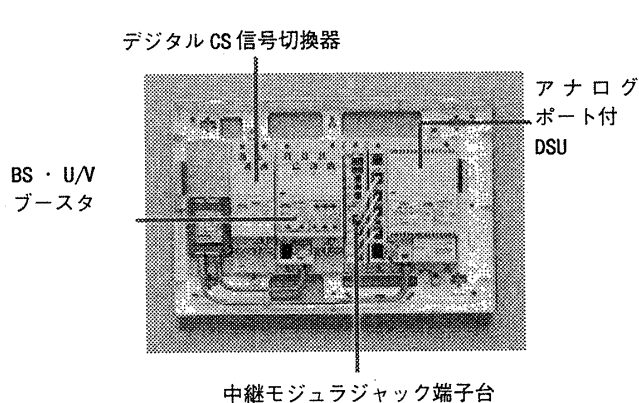


Fig.1 マルチメディアポート

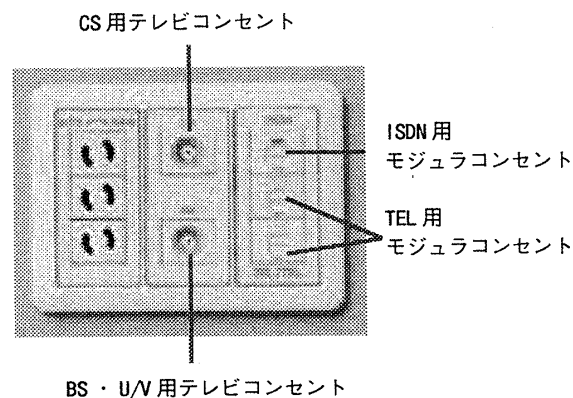


Fig.2 マルチメディアコンセント

Home Information Infrastructure, Today and Future

Jun Tokuda (E-mail:jtokuda@rda.mew.co.jp)

Matsushita Electric Works, Ltd.

1048, Kadoma, Osaka 571-8686, Japan